第一八 新聞雜誌 續一

號題	發行所	刊行度數	號題	發行所	刊行度數
紀州酒醬油新聞	紀州酒醬油新聞社	月二回	熊野太陽	熊野太陽社	日刊
大正新聞	伊都郡橋本町 大正新聞社	月十五回	牟婁報知	西牟婁郡田邊町 田邊新報社	同
又新日刊	同郡高野口町 又新日刊社	日刊	牟婁新報	同 牟婁新報社	月十五回
紀和實業新聞	同郡妙寺町 紀和實業新聞社	週刊	田邊新報	同 田邊新報社	同
高野山新報	同郡高野町 高野山新報社	月一回	紀伊日日新聞	同 牟婁郡串本町 紀伊日日新聞社	同
高野山	同 高野山社	同	黒洋新聞	同 黒洋新聞社	日刊
高野山時報	同 高野山時報社	月三回	南海日日新聞	同 南海日日新聞社	月十五回
聖愛	同 聖愛社	月一回	熊野實業新聞	東牟婁郡新宮町 熊野實業新聞社	日刊
紀和評論	同郡高野口町 紀和評論社	月二回	熊野新報	同 熊野新報社	同
紀伊萬朝報	有田郡湯浅町 紀伊萬朝報社	月十五回	熊野毎日新聞	同 熊野毎日新聞社	同
新有田	同 新有田社	月十回	民聲日報	同 民聲日報社	同
南海産業新聞	同郡保田村 南海産業新聞社	月三回	三和新報	同 三和新報社	月三回
南海時報	同郡箕島町 南海時報社	日刊	紀州水産新聞	同 紀州水産新聞社	月二回
太陽新聞	同 太陽新聞社	月十五回	紀和新聞	同 紀和新聞社	月一回
和歌山公論	同 和歌山公論社	月三回	南國民報	同 新宮時報社	同
紀南新聞	日高郡御坊町 紀南新聞社	日刊	紀州獨立評論	同 紀州獨立評論社	同
日高新報	同 日高新報社	同	平凡新聞	同 紀州印刷株式會社	同
紀伊新報	西牟婁郡田邊町 紀伊新報社	同			

備考 グ揭ヲミノノモノハ有保証ノ本表ヘ

第一九 公園

名稱	所在地	段別
		町
岡公園	和歌山市岡山丁	2.4221
和歌山公園	和歌山市一番丁	20.7205
和歌公園	海草郡和歌浦町	55.3813
湊公園	西牟婁郡田邊町	7.7921

備考 グ揭ヲミノノモノセル警察ヲ以テ貴縣市又貴縣ヘ

第二〇 神社

名稱	社格	祭神	所在地	由來
日前神宮國懸神宮	官幣大社	{日前大神 國懸大神	和歌山市秋月	崇神天皇ノ御宇海草郡濱ノ宮ニ創立セラレシカ垂仁天皇十六年名草萬代宮ニ遷サル今ノ宮是ナリ
竈山神社	同	彦五瀨命	海草郡三田村大字和田	神武天皇東征ノ時命薨去ノ跡ニシテ其御墓ト相隣レリ
熊野坐神社	同	家津美御子大命	東牟婁郡本宮村	新宮ノ速玉那智ノ那智神社ト共ニ熊野三社ト稱シ歴朝ノ尊信極メテ厚ク六本村浮島原ニ鎭坐セシカ明治二十二年ノ水災ヲ蒙リ後今ノ地ニ遷祀ル
熊野速玉神社	同	{熊野速玉大神 伊邪那岐神	同郡新宮町	景行天皇五十八年創立
丹生都比賣神社	同	{丹生都比賣神 高野御子神	伊都郡天野村大字上天野	創立年月詳不
伊太祁曾神社	官幣中社	五十猛命	海草郡西山東村大字伊太祁曾	祭神ハ殖林ノ神トシテ知ラル
熊野那智神社	同	{熊野速玉大神 熊野夫須美大神 家津美御子大神	東牟婁郡那智村大字市野々	熊野三山ノ一社ニシテ世ニ熊野權現ト稱ス創立ハ仁徳天皇ノ御宇ナリトノ說アリ
刺田比古神社	縣社	{刺氏比古命 道臣命	和歌山市片岡町	
大屋都姫神社	同	大屋都姫命	海草郡川永村大字字田森	
木本八幡宮	同	{神功皇后 應神天皇 日靈大神	同郡西脇野村大字四庄	欽明天皇ノ御宇創立セシモノト云フ
東照宮	同	{德川家康 德川賴宣	同郡和歌浦町	元和七年十一月創立
八幡神社	同	{譽田別命 玉依姫命 仲哀天皇 息長帶姫命 仲恭天皇	那賀郡東野上町大字小畑	欽明天皇ノ御宇創立
八幡神社	同	{譽田別命 足仲彦命 氣長足姫命	同郡桐淵村大字岩瀨	安貞ノ比帝ノ勅詔ニヨリ同二年八月男山八幡宮ヲ遷坐ス
隅田八幡神社	同	譽田別命	同郡隅田村大字垂井	應保元年創立
須佐神社	同	素盞嗚命	有田郡保田村字千田	和銅六年十月大和ヨリ遷坐
闕鷄神社	同	伊邪那美命	西牟婁郡田邊町大字湊	允恭天皇八年ノ創立ニシテ元歴年中熊野ノ別當湛賀僧正白二鷄ヲ闕ヘシテ灘平二氏ノ家運ヲトシタルニ因リ名アリ

第二一 佛閣 (著ナルモノ)

名稱	宗派名	所在	由來
護國院	眞言宗	海草郡紀三井寺村大字紀三井寺	稱德天皇ノ御宇唐僧鑑光ノ草創ニ係リ西國三十三ケ所第二番ノ札所タリ一名紀三井寺ト稱ス
紛河寺	天臺宗	那賀郡粉河町大字粉河	寶龜年中大伴孔子古ノ創マル所ニシテ西國三十三ケ所第三番ノ札所タリ
大傳法院	眞言宗新義派	同郡根來村大字西坂本	僧覺鑁ノ開基ニシテ一名根來寺ト稱ス初メ高野山ニ在リ後此地ニ移セリ
金剛峰寺	眞言宗高野派	伊都郡高野町大字高野山	眞言宗ノ古刹トシテ弘法大師草創ノ地タリ奥ノ院ハ大師入定ノ地ニシテ四時香ヲ絶タス
道成寺	天臺宗	日高郡矢田村大字鐘巻	一名天音山千手院ト稱シ大寶年中文武天皇紀道成ニ勅シテ草創セシメラレタル所ナリト云フ
青岸渡寺	天臺宗	東牟婁郡那智村大字市野々	西國三十三ケ所第一番ノ札所トシテ其名高シ
總持寺	淨土宗	海草郡野崎村大字梶取	寶德二年創立明秀雲上人ノ開基ニ係ル後奈良正親町二院ノ勅願寺ニシテ淨土宗西山派檀林七本寺ノ一ナリ

4874
51

昭和六年三月二十日印刷

昭和六年三月二十五日發行

和歌山縣

印刷所　根來印刷所
和歌山市本町五丁目一番地

印刷者　根來兼吉
和歌山市本町五丁目一番地
電話　四二番・六九三一番

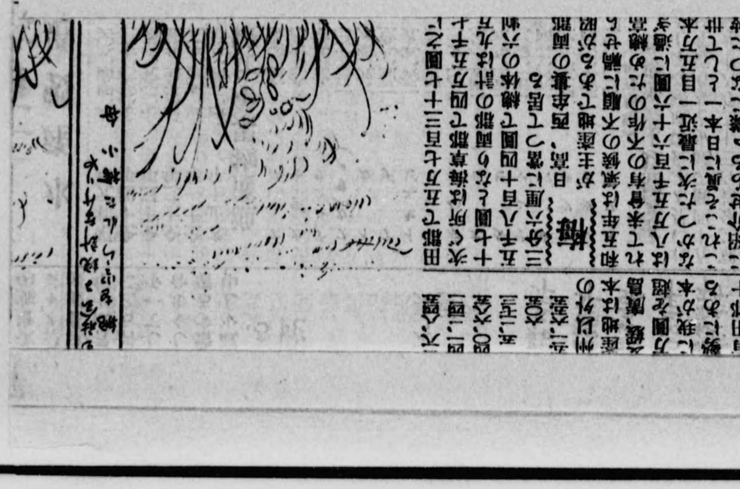
其の内那賀一郡で四万七千百十八圓を産し同郡の内で安樂川村は二万五千八十圓産して縣下第一の桃の産地なつて居る

町國では神奈川、岡山の両縣五十万圓以上を産しお隣り大阪府は二十万圓を産して三位となつて居る

梨 古來一般に嗜好せらるゝ果物で現在我國産する果物の内では生産高於て蜜柑、柿に次ぎ一ヶ年十二百万圓を超へて居る、なる産地は靜岡、新潟、熊、愛媛、岡山となり何れも十万圓を超へて居るが我が下には非常に尠く昭和五年には左の通り哀れな數字がほれて居る

日本梨	三八、一九二円
西洋梨	八四七
計	三九、〇三九

高西牟婁の両郡で二万四千百二十九圓(六割二分)を産して居る



柑子 那賀郡一万八百十二圓海草郡九千百十六圓二郡計一万九千九百二十八圓(六割四分)に當つて他を顧る要なからしめて居る

枇杷 三万八百五十四圓の生産に過ぎず其の中有田郡が五割八分に當る一万七千八百四十二圓を産し同郡の中でも田栖川村が一万五千五十圓を上げ自ら縣下に於ける唯一の本場となつて居る、全國では長崎が五十萬圓千葉、兵庫が二十万圓を上げて居る

櫻桃 目下のところ年産僅かに一千二百八十五圓で批評すべき程度のものではないが前途ある果物と見られて居る、國内では山形、福島の両縣が二十万圓以上を産して居る

牛乳

三十年前の十倍に増加

五年く子に乳其の乳が今では病大は勿論成人した健康者にもウ手を擧げて歡迎せらるゝ樣ヤなつて來た昭和五年中の縣集に於ける牛乳の搾乳高は九見三百八十石で價額は三十一みの一千百二十一圓前年よりは通乳高に於て五百三石價額に量て八万五千四十九圓の減と額つては居るが三十年前の明

牛屠殺ノ趨勢

明治三十三年　昭和五年

頭數	三、四〇八頭	五、〇六八頭
肉量	八三、一六三貫	一九二、七一七貫
價格	九九、二六七円	七五五、八九一円

調べて見ると左の通りで和歌山市を中心とした所で全体の六割四分を占め文化の尺度となつて居るが如く思はしめて居る

搾乳石數(昭和五年)

海草	五、四九三石
日高	一、一四二
東牟婁	七四四
和歌山	五一五
西牟婁	四三三
有田	四二六
那賀	三八〇
伊都	二四七
計	九、三八〇

豚

昭和五年末に於ける養豚の數は三千百二十七頭で前年よりは飼養戸數十一戸頭數百七十六頭を減じて居るが此の減少は極めて一時的のものと言ふべく大

金柑

は西牟婁郡は六万一千六百二十

柿

が主産地であるが昭和五年は氣候の不順に禍せられて未曾有の不作のため總高は八万五千百六十六圓に過ぎなかつた次に最近一目五万本に紹介せらるゝ樣になつた他の南部の大梅林は小高い山上から一目に見ゆる南部、上南部の両町村内にある梅林をさしたもので両町村内の梅樹の數と宣傳とは全く一致し少しも欺瞞誇大の事に出てないことを無言の數字が何よりも雄辯に證據立てゝ居るのは特筆すべきであらう

南部町　一六、八六〇*
上南部村　三四、四〇〇
計　五一、二六〇

全國の産地は靜岡、埼玉、愛知の三縣で何れも二十万圓を超へて居る

梅

日高、西牟婁の両郡が主産地であるが昭和五年は氣候の不順に禍せられて未曾有の不作のため總高は八万五千百六十六圓に過ぎなかつた次に最近一目五万本に紹介せらるゝ樣になつた他の南部の大梅林は小高い山上から一目に見ゆる南部、上南部の両町村内にある梅林をさしたもので両町村内の梅樹の數と宣傳とは全く一致し少しも欺瞞誇大の事に出てないことを無言の數字が何よりも雄辯に證據立てゝ居るのは特筆

牛乳

三十年前の十倍に増加

五年く子に乳其の乳が今では病大は勿論成人した健康者にもウ手を擧げて歡迎せらるゝ樣ヤなつて來た昭和五年中の縣集に於ける牛乳の搾乳高は九見三百八十石で價額は三十一みの一千百二十一圓前年よりは通乳高に於て五百三石價額に量て八万五千四十九圓の減と額つては居るが三十年前の明

和歌山縣勢

和歌山縣知事官房統計課
編輯人　統計課長　乾　芳男　和歌山市本町二丁目三番地
印刷人　江川菊松　和歌山市本町二丁目三番地
印刷所　合名會社　江川印刷所

人口動態

縣内に籍を有するもの、昭和五年中の人口動態は十八分間に赤ん坊一人が生れ、三十三分間に一人づゝ此の世を去り、毎日十九組半づゝ結婚が行はれ、二組づゝ離縁せられて居る勘定となつて居る

統計の取扱者に望む

統計は一見した場合には極めて無趣味な數の集りとより見えぬものであるが心して見る時は無趣味と思はるゝ數の内部には統計の生命が宿つて居つて其の生命が刻々に進展し錯綜して行く國家社會の實狀を物語つて居る許りではなく既往の有様も傳へ延いては今後に進むべき途をも敎へられて居ることを知ることが出來る

從つて統計の取扱者は常に調査の爲の調査たらしめず國民殊に爲政者をして一見無趣味さする數の内部に宿る所の統計の生命に十二分の意を拂はしむべき工夫さ努力を注がなければならない

然るに我國の統計事務に携はる人々には資料の蒐集のみに盡して事足れりと考ふる者の頗る多き現狀にあるのは遺憾至極とする所である

元來統計は資料の蒐集のみにては極めて無味乾燥なる仕事たるを免れぬが自己の蒐集したる資料を初め其の他の資料を基礎として社會萬般の事相を推理する時は趣味自から湧き出でゝ必然的に權威ある統計卽ち事實に相違なき迄も近き統計を作製するに獻身的の努力を吝しまざるに至るものである

本紙は一見無趣味と思はるゝ統計を趣味化し通俗化し見る人をして容易に理解せしむる目的を以て編纂して居る

統計關係者各位幸に意のある所を諒せられ幾分なりとも參考となり以て本縣の統計に刷新改善の意を注がるゝならば幸甚とする所である

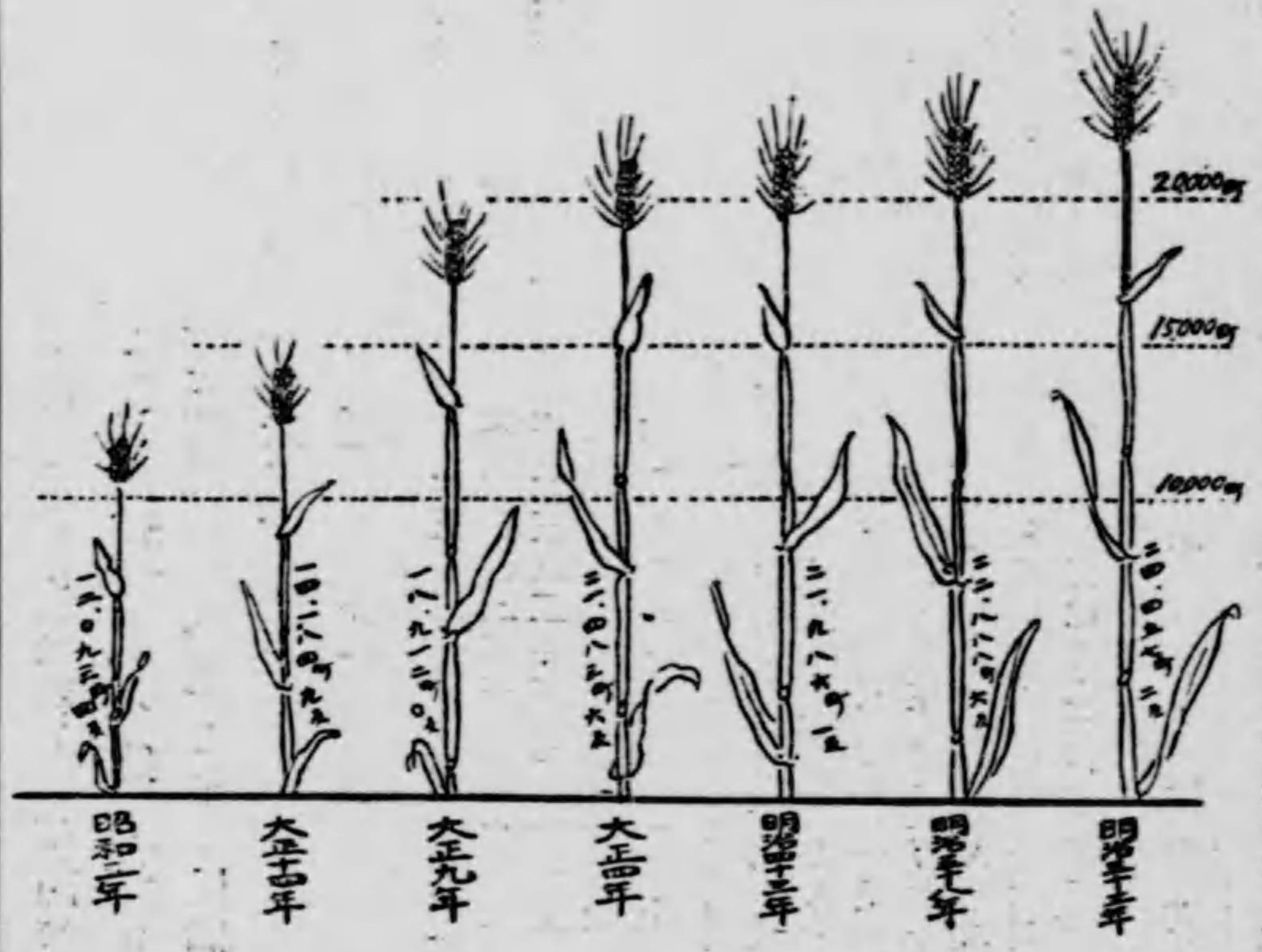
全く姿を失はんとする 本縣の麥作

最近一ヶ年に六百二十町歩づゝ減る

古き昔から米に次ぐ大切な食料品さして特に重視せられて居る麥が一般の生活程度が向上したさいふのか但しは分不相應の贅澤に陷つたさでもいふのか兎に角褌を緊めた樣な麥飯なんかは脚氣患者か牛馬以外には見向もせられなくなつた感じがする從つて我が縣下に於ける栽培反別は年々歳々減少する一方で最近に至つて一層其の程度が甚だしくなつて來た！

試みに 明治三十三年から昭和五年までの既往三十ヶ年の作付狀況に就て觀察して見ると明治三十三年から大正四年までの十五ヶ年間には二千九百七十三町六反歩の減少で一ヶ年の割合は百九十八町二反歩であつたが大正四年から昭和五年迄の同じ十五年間には九千三百九十町二反歩さいふ驚くべき減少で一ヶ年平均六百二十六町歩さいふ割合さなり今後尚此の調子を持續するものさせば十九年後卽ち昭和二十五年には我が縣下には全く麥の姿を失ふに至る寔に悲觀すべき趨勢を示して居る今や

人口は 加速度的勢を以て增加し食料品は自給自足を爲し難きを憂ふる狀態にある經濟的打擊は又津々浦々にまでも被つて擧國一致難局打開の途を講じつゝある秋麥作に心を注ぎ昔の如く褌を緊めた麥飯を三度の食膳に供し見るにつけ味ふにつけ弛緩したるお互の心の褌を引緊めるこさが極めて大切な樣に思はれてならない



【挿畵は悲觀すべき縣内麥作の狀況】

製茶 萎靡退嬰する一方

昭和五年中の製茶は製造戶數二万三千二百十七戶數量八万一千百二十三貫價額八万四千二百七十五圓で前年より戶數で百四十四戶數量で八千四百四十九貫價額で一万三千十六圓(一割三分弱)の減少となつた許りでなく自家用を主として居るため年々萎靡退嬰する一方である

郡別では東牟婁の二万二千二百五十八圓が首位で西牟婁、有田、日高と順に次ぎ何れも一万圓以上を產して居る

番茶	六九、〇四九円
煎茶	一三、九二六
玉露	九〇〇
其他	四〇〇
計	八四、二七五

縣下に生產する樣々の果物 五百四十萬圓餘

みかんは九割を占む 【昭和五年中の成績】

全國で一ヶ年に生產する果物は八千四百万圓(昭和四年中)を超え其の中我が和歌山縣は大体六分五厘に相當する五百四十萬圓(昭和五年中で比較する年度が異なるから率は大体を示す)を產して全國中屈指の果物生產地となり更らに縣下で生產するもの丶中ではみかん類は九割强を占めて古今を通じて紀州紀の國みかんの出所として全國第一の榮冠を荷ひ續けつゝあるのもさこそと思はしめて居る

全國の生產(昭和四年)

「溫州みかん、普通みかん、八ツ代柑は昭和三年二月より昭和四年一月までのものを其他の柑橘は昭和三年八月より昭和四年七月までの生產」

柑橘類	三七、九九九、〇一八
柿(干柿を含む)	一六、三五四、六五三
梨	三、五七四、〇九一
リンゴ	七、七三八、九〇三
ブドウ	六、〇三九、三四八
桃	五、二四四、四二五
梅	五、一〇四、〇三八
枇杷	二、二六二、九〇八
櫻桃	八二五、四二三
計	八四、一三二、七八七

縣内の生產(昭和五年)

「溫州みかん、普通みかん、八ツ代柑は昭和五年の二月より昭和六年の一月までに生產したものを其他の柑橘は昭和四年の八月より昭和五年の七月までに生產したものを掲げて居る」

溫州みかん	三、五五二、六五五円
夏みかん	四五二、九六七
ネーブルオレンチ	三三〇、六九六
柿(干柿を含む)	二四七、七八八
八ツ代柑	一九〇、九三五
普通みかん	一五〇、六四二
梅	八五、一六六
金柑	七一、三四九

蔬菜 西瓜は破竹の勢で發展する

昭和五年中に生產した蔬菜の中で大根、カブラ、ニンジン、ゴボウ、サトイモ、蓮根、ネギ、キヤベツ、漬菜、落花生は目下集計未了のため全体の成績を見ることが出來ないが集計濟みのものを掲げて見ると左の通りで前年より作付反別や數量の增加したものはあるが價額は何れも減少して居る尚左に示した内で第一位を占めて居るスイカは破竹の勢で增加の趨勢を示して居る之れが現在の主產地は海草郡で全体の六割八分に當る二十八万七千百九圓を產して居るが近時各郡市を通じて此の栽培をなすもの頓に增加しつゝある

スイカ	四二〇、〇七〇円
ソラマメ	一八六、〇七二
ナス	一二六、四九八
カボチヤ	一一七、三六九
キウリ	七二、四二〇
エンドウ	二一、六二九
シロウリ	一九、五二五
マクワウリ	一四、七六四
インゲンマメ	一二、三七四
トマト	三、三四六
ユリ	九四五
計	九九五、〇一二

ハゼ

電燈のまだ縣下に普及しない明治三十二年の統計に依ると蠟燭の原料となるハゼが物價の安い時代であつたに拘らず三万一千八百五十七圓に達して居たが時節は代つて昭和五年中の此の生產高は一万二千三百九十六圓に減少して來た現在の產地は有田、海草、那賀の三郡で共に三千圓辛うじて昔の面影を殘して居る

コンニヤク

芋は三万六千三百三十七圓(昭和五年)で前年より一千二百二十四圓を減少した主產地は西牟婁郡で一万六千七百三十六圓同郡に次ぐ所は有田郡の七千二百六十七圓となつて居る

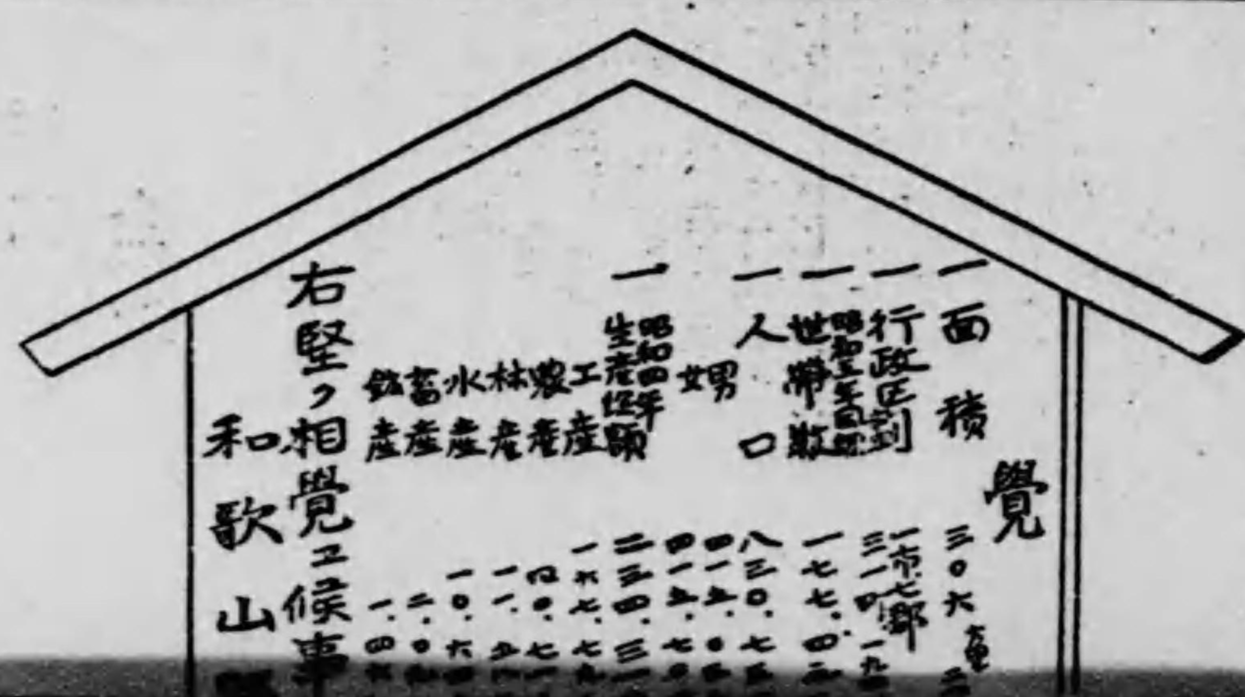
食用農產物 九十萬

前年より

米麥を除いた食用農產物の内で縣内に出來ないものはヒエだけで其の他のものは多少に拘らず每年生產して居る昭和五年中の生產高は八十九万二千六百四圓で前年に對比するとジヤガイモが若干の增加を見た外は何れも減少するに至り就中總額の七割三分を占めて居るサツマイモに於て十五万五千五十四圓步合にして一割九分の減を示した爲に總額に於て二十万四千百三十三圓(一割九分弱)の減となつた

サツマイモ	六〇四、〇八五円
大豆	一二五、一八四
ジヤガイモ	七三、三九八
小豆	二六、九三五
アワ	八、七九四
ソバ	六、九九八
キビ	二、三七二
トウモロコシ	一、六二四
サツマイモ切干	一、一三四
計	八九二、六〇四

一に統計、二に善政



昭
ブ
三寶
桃
梨
柑
枇
櫻
其他
計

溫州
橘類總
て斷然
しなが
の三割
して第
る海草
々相摩
肉迫す
のに對
日高郡が
通り今
ず碍の
別けて
じがす
有
海
那

全國で
もの全
縣を除
の諸縣
へ就中
縣を凌
夏み
百六十
九百五
十万二
て六割
は取り
ネー
オレ
十九圓
那賀郡
伊都郡
で有田
は二十
總高の
居るか
であら

伊
西
日
東
和
計

農産物 …十萬圓 前年より一割減

…用農産物の内…いものはヒエ…ものは多少に…して居る昭和…は八十九万二…年に對比する…若干の増加を…減少するに至…割三分を占め…モに於て十五…歩合にして一…した爲に總額…千百三十三圓…減となつた

六〇四、〇八八円
一二五、一八四
七三、三六六
二八、九三五
八、七五四
六、九九八
二、三五二
一、六二四
一、一四四
千 八九二、六〇四

…一に善政

昭和五年中

ブドウ	六六、〇三二
三寶みかん	六二、一三三
桃	五七、七〇五
梨	二九、〇二九
柑子	三二、二八一
枇杷	三〇、八五四
櫻桃	一、二六五
其他ノみかん	四二、五八七
計	五、四〇二、〇九二

温州みかん

温州みかんは縣下に於ける柑橘類總高の七割三分弱を産して断然地を抜き其の本場は昔ながらの有田郡となり全体の三割八分弱を占めて居る而して第二第三の地を占めて居る海草と那賀の兩郡は今や[illegible]々相摩す勢で本場の有田郡に肉迫するの趨勢を示して居るのに對し本場の地續に位する日高郡が數字に表はれて居る通り今日まで殆んど吾れ關せず焉の狀態に過して來たのは別けても不思議と言ひたい感じがする

有田	一、三四六、三四七円
海草	八六六、四〇九
那賀	八二三、二〇九
伊都	四八、八四五
西牟婁	四二、一四二
日高	四〇、六八五
東牟婁	五、二一三
和歌山	六〇五
計	三、五五二、六五五

挿畫説明 縣民として當然知つて置く必要のある事柄を特に注意を拂ふ樣に制札に形とつて表はしたものである

八〇、三三二、七八七

…産（昭和五年）

…普通みかん、
…和五年の二月
…の一月までに
…其他の柑橘
…八月より昭和
…でに生産した
…居る」

三、五五二、六五五
四五二、九六七
…ンヂ 三三〇、六九六
二四七、七八八
一四〇、九五五
一四〇、六四二
八〇、一六六
七二、三四九

全國での柑橘類（温州以外のもの全部を含む）主産地は本縣を除いては静岡、愛媛、廣島の諸縣で何れも二百万圓を超へ就中靜岡縣は今將に我が本縣を凌駕せんとする勢にある

夏みかん

夏みかんは有田郡十六万三千二百六十六圓日高郡十三万八千九百五圓を産し兩郡の計は三十万二千百七十一圓歩合にして六割六分七厘となり他の郡は取り立てる程の生産はない

ネーブルオレンヂ

ネーブルオレンヂも有田郡十三万六千二百三十九圓を産して第一位となり那賀郡七万三千九百五十四圓伊都郡五万八千四百三十四圓で有田郡に續き以上三郡の計は二十六万八千六百二十七圓總高の八割三分八厘を占めて居るから他は推して知らる、であらう

柿（干柿を含む）

誰れもが幼少年の時代に敎へられた猿蟹合戰を聯想する柿は專門家の調べに依ると本邦特有のもので千に餘る種類があるが他の果物の樣に外國種に染つたものは目下の所一つもないとのことである

全國の一ヶ年の生産高は一千六百万圓餘で主産地としては長野、廣島、福島、岐阜、新潟、兵庫の諸縣が數へられ共に年産五十萬圓を超へて居るが我が縣下には昭和五年中に

生柿	一〇六、三〇〇円
干柿	四一、五〇八
計	一四七、八〇八

前記の生産に過ぎず其の内伊都那賀の兩郡が共に五万圓以上を産して縣全体の約六割を占めて居る

八ッ代柑

八ッ代柑は海草一郡で十三万八千二百七十一圓全体の七割二分四厘を占め他郡の追從を許さゞる地位にある

普通みかん

普通みかん「沖の暗いのに白帆が見える彼れは紀の國みかん船」と今から二百二十年も前の頃紀の國屋文左衞門が冒險的行動をとつて江戸の人々を雀躍りさせた當時の紀州みかんは此のみかんであつたらしいが品種の改良に今では漸く名殘りを止める程度の生産に過ぎなくなつて來た現在最も多く産する所は矢張り有田郡で五万七百三十七圓之に次ぐ所は海草郡で四万五千七十七圓となり兩郡の計は九万五千八百十四圓で總体の六割三分六厘に當つて居る

梅

梅 日高、西牟婁の兩郡が主産地であるが昭和五年は氣候の不順に禍せられて未曾有の不作のため總高は八万五千百六十六圓に過ぎなかつた次に最近一目五万本これこそ眞に日本一として世に紹介せらるゝ樣になつた彼の南部の大梅林は小高い山上から一目に見ゆる南部、上南部の兩町村内にある梅林をさしたもので兩町村内の梅樹の數と宣傳とは全く一致し少しも敗瞞誇大の鼻に出てないことを無言の數字が何よりも雄辯に證據立てゝ居るのは特筆すべきであらう

南部町	一六、八六〇本
上南部村	三四、四〇〇
計	五一、二六〇

全國の産地は静岡、埼玉、愛知の三縣で何れも二十万圓を超へて居る

金柑

金柑は西牟婁郡は六万一千六百二十

四圓歩合にして總体の八割六分四厘を占めて居るから同郡特有のものと言つてよい

ブドウ

ブドウ 盛夏炎暑の候から初秋にかけて人口の最も渇を覺へる季節に成熟するブドウは皮柔らかで運搬の便惡しく遠方の輸送全く望みないものとして都會地附近の生産に限られて居つた時代は昔の夢と過ぎ去つて今では荷造輸送の方法も研究せられ山梨縣の甲州種は遠く四國、九州の地方にまでも安全に輸送せらるゝ樣になり品種も年と共に優良なものに改められ現在本邦産の甲州種を除いては外國種が盛に栽培せらるゝやうになつて來た縣内の生産高は年々増加の傾向に進んで居るが昭和五年中の成績で漸く六万六千三十一圓に達した程度であるから千ブドウやブドウ酒に加工するが如きは全然なく生食用の分も縣内の需要すら充たし得ない狀況にある、主なる産地は那賀伊都の兩郡で全体の八割に當る五万二千八百九十四圓を上げて居る

國内の生産高は六百万圓餘で年々發展しつゝある、現在の産地は大阪と山梨で共に百万圓を超へて居る

三寶みかん

三寶みかん 一般に珍寶がらるゝ此の蜜柑も目下のところ有田郡が第一位を占め其の額三万一千百三十九圓海草郡は二万一千六百六十六圓で之に次ぎ兩郡の計は五万二千八百五圓で八割六分四厘となり他郡に指折り數へしむる餘地を與へて居ない

桃

桃 鬼征伐をした勇敢な彼の桃太郎を思ひ出す桃の生産は我が縣下には一ヶ年僅かに五万七千七百五圓で其の内那賀一郡で四万七千八百十八圓を産し同郡の内でも安樂川村は二万五千八十圓を産して縣下第一の桃の産地となつて居る

全國では神奈川、岡山の兩縣は五十万圓以上を産しお隣りの大阪府は二十万圓を産して第三位となつて居る

梨

梨 古來一般に嗜好せらるゝ果物で現在我國に産する果物の内では生産高に於て蜜柑、柿に次ぎ一ヶ年一千二百万圓を超へて居る、主なる産地は靜岡、新潟、熊本、愛媛、岡山となり何れも五十万圓を超へて居るが我が縣下には非常に尠く昭和五年中には左の通り哀れな數字が表はれて居る

日本梨	三八、一九二円
西洋梨	八四七
計	三九、〇三九

日高西牟婁の兩郡で二万四千百二十九圓（六割二分）を産して居る

柑子

柑子 那賀郡一万八百十二圓海草郡九千百十六圓二郡計一万九千九百二十八圓（六割四分）に當つて他を顧る要なからしめて居る

枇杷

枇杷 三万八百五十四圓の生産に過ぎず其の中有田郡が五割八分に當る一万七千八百四十二圓を産し同郡の中でも田栖川村が一万五千五十圓を上げ自ら縣下に於ける唯一の本場となつて居る、全國では長崎が五十萬圓千葉、兵庫が二十万圓を上げて居る

櫻桃

櫻桃 目下のところ年産僅かに一千二百八十五圓で批評すべき程度のものではないが前途ある果物と見られて居る、國内では山形、福島の兩縣が二十万圓以上を産して居る

馬も泣き牛も泣く スピード時代の悲劇？

牛の歩み

のよし遲くとももと尊ばれた時代もスピード時代となり歩みの遲い牛に荷物の運搬をせしめるよりも馬、馬よりもトラックと言つた調子に變つて來た爲に今迄我子の如くに勞はつて居つた牛と涙の別れをする者が年々増加し昭和五年末にも前年より二百三十七頭の減少を見た

馬は目下

の所飼養戸數も頭數も牛の比ではないが昭和四年までは漸次愛用せらるゝ程度が高まりつゝあつたところ俄然昭和五年末に至つて前年より七十六頭の減少となりスピード時代の悲劇は駕昇、人力車夫から延いては牛馬にまでも味はれる時代に變つて來た

牛飼養戸數（昭和五年末）

一頭	一五、六七二戸
二頭	八二七
三頭乃至四頭	七一
五頭以上	五四
計	一六、六二四

牛ノ數（昭和五年末）

那賀	五、八〇〇頭
日高	四、九九五
西牟婁	四、九六五
海草	四、四一〇
伊都	二、七八六
東牟婁	二、五八四
有田	二、五六八
和歌山	二二八
計	二八、三三六

牛飼養ノ趨勢

明治三十三年	三四、二五四頭
昭和五年	二八、三三六
差引減	五、九一八

馬飼養戸數（昭和五年末）

一頭	一、二六五戸
二頭	四六
三頭乃至四頭	三一
五頭以上	一〇
計	一、三五二

馬ノ數（昭和五年末）

有田	二八二頭
和歌山	二五八
海草	二五三
那賀	二三三
日高	二三三
伊都	一六三
西牟婁	一二二
東牟婁	一〇
計	一、五五四

馬飼養ノ趨勢

明治三十三年	一、一八五頭
昭和五年	一、五五四
差引増	三六九

縣民は一ヶ年に五千頭の牛を食ふ

神棚の奉安した室内で四ッ足のものを食することを大變に忌み嫌はれた時代は牛肉を食する者は極めて尠かつたが時は移り代は變つて所もかまはず又貴賤貧富の分ちもなく四ッ足の肉に舌皷を敲つ樣になつた今日此頃では牛肉を食する量が著しく多くなつて來た

昭和五年中に我が縣民が食した牛の數は不景氣の影響を受けてか前年より頭數に於て五百六十二頭肉量に於て一万七千十三貫價額に於て二十四万五千七圓（一割五分二厘）の減少を見たが夫れでも**五千二十八頭の多きに達し其の肉量十九萬二千七百十七貫價額七十二萬五千八百九十一圓**となり三十年前の明治三十三年と較べては頭數に於て一千五百四十八頭價額に於て六十六万三千五百九十六圓を増加するに至つた馬肉、豚肉は牛肉と較べては價ひも安いが味ひの點に於て及ばざること遠きが爲か昭和五年に於ては馬は僅かに百八十四頭、豚は二百三十八頭を食したるに過ぎない

牛屠殺ノ趨勢

	明治三十三年	昭和五年
頭數	三、四八〇頭	五、〇二八頭
肉量	八三、一六三貫	一九二、七一七貫
價格	七九、二六七円	七二五、八九一円

牛乳 三十年前の十倍に増加

泣く子に乳其の乳が今では病人は勿論成人した健康者にも双手を擧げて歡迎せらるゝ樣になつて來た昭和五年中の縣下に於ける牛乳の搾乳高は九千三百八十石で價額は三十一万一千百二十一圓前年よりは搾乳高に於て五百三石價額に於て八万五千四十九圓の減となつては居るが三十年前の明治三十三年と對比すると約十倍に増加し尙ほ年と共に增加すべき趨勢を示して居る

需要の趨勢

明治三十三年	九八〇	三六、九六四円
全 四十三年	二、三五四	八五、四二九
大正九年	四、七〇一	一二九、一四四
昭和五年	九、三八〇	三一一、一二一

更らに郡市別に需要の狀況を調べて見ると左の通りで和歌山市を中心とした所で全体の六割四分を占め文化の尺度となつて居るが如く思はしめて居る

搾乳石數（昭和五年）

海草	五、四九三石
日高	一、一四二
東牟婁	七四四
和歌山	五一五
西牟婁	四三三
有田	四二六
那賀	三八〇
伊都	二四七
計	九、三八〇

豚

昭和五年末に於ける養豚の數は三千百二十七頭で前年よりは飼養戸數十一戸頭數百七十六頭を減じて居るが此の減少は極めて一時的のものと言ふべく大勢から眺めては國民の肉食増加に伴ひ非常な勢で發展しつゝあるものと觀察せられる

明治三十三年	五九頭
全 四十三年	二一八
大正四年	五二六
全 九年	九八八
全 十四年	一、七五九
昭和五年	三、一二七

毎年二百五十人の自殺者がある勘定

命あつての物種と殺人の大罪を犯かした奴輩でさへ假令暫しの間でも生き長らへんともがくは人心なるに無分別も亦甚だしき二度と歸らぬ旅路へさして急ぎ發足せし者が昭和五年中に男百九十人女百二十五人計三百十五人（外に未遂二十四人）を數ふるに至つた

今之等 無分別者の原因を調べて見ると病苦しみに堪へ兼ねて死を決するに至りし者が全數の二割一分を占めて最も多く精神に異狀を來たした者が之に次ぎ世を厭ひたるものが更に之に次ぎ四百四病の病より貧程つらいものはないと昔から人口に膾炙する貧故の自殺は第四番目となり以上四つの原因に基く數は百九十一人で全數の六割を占めてゐる

原因別（昭和五年）

病苦	六六人
精神錯亂	五〇
厭世	四二
貧困	三三
情死	一六
老衰不自由	一五
其他	九三
計	三一五

自殺の方法は首吊りが百二十九人で最も多く次は入水で百二人を數へ此の二者の數は二百三十一人で全体の七割三分を占め殘る者は猫入らず等の毒物を服したる四十七人鐵道線路目懸けての飛込み二十四人其の他十三人となつて居る最後に既往**十ヶ年**間の自殺者數を調べて見ると**驚く勿れ二千五百八十八人に達し一ヶ年平均二百五十八人**となり恰かも毎年豫め打合してあるかの如き數が事實となりて表はれて來るのは不思議とでも言ふべきか

累年比較

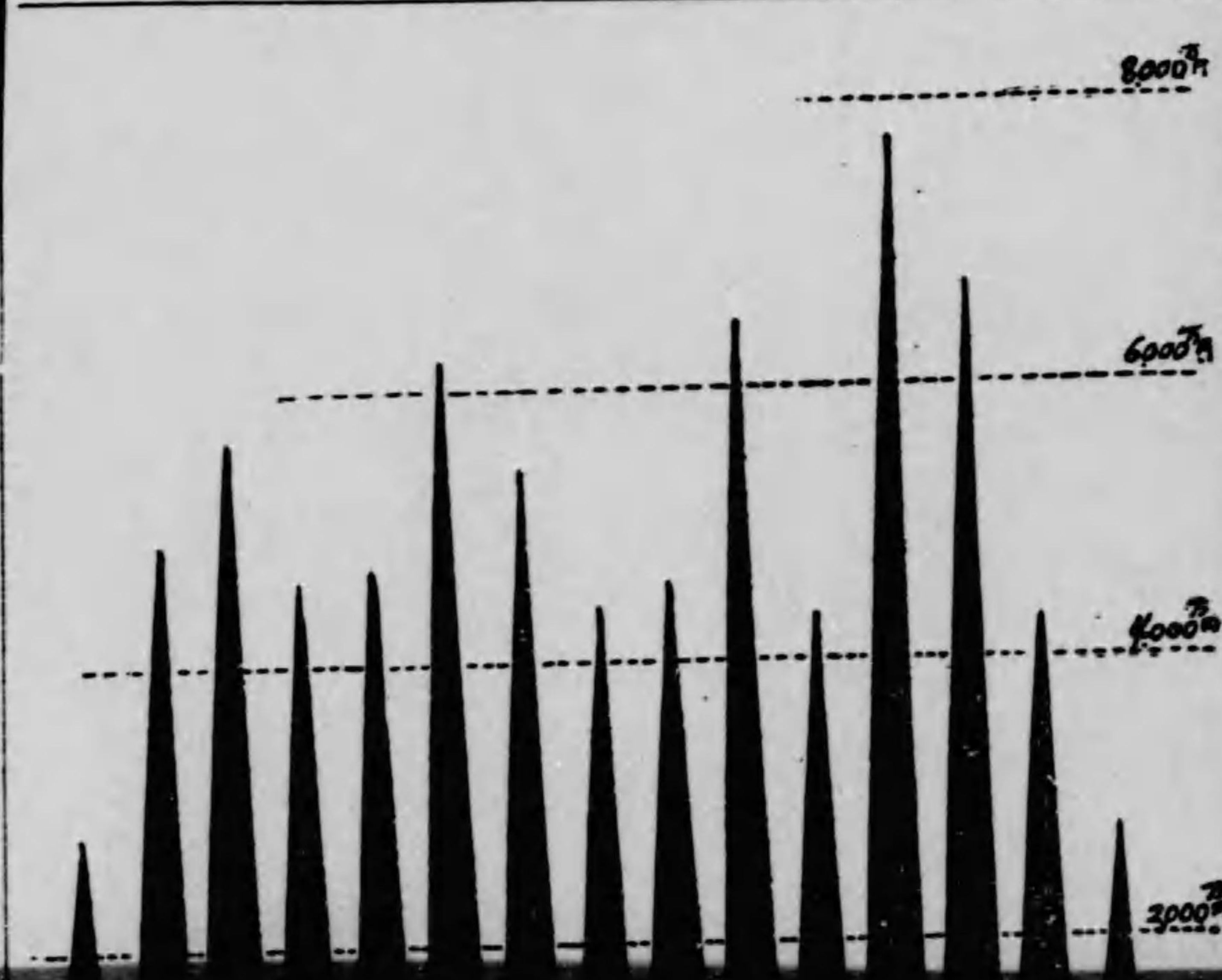
大正十年	一七四人
全 十一年	二七五
全 十二年	二二三
全 十三年	二五六
全 十四年	二八九
昭和元年	二七六
全 二年	二六一
全 三年	二四〇
全 四年	二七九
全 五年	三一五
計	二、五八八

十五年前に逆戻る 綿織物の生産
前年より三割八分の減
昭和五年中の成績

本縣第一の物産綿織物の昭和五年中の生産は二千九百十五万一千六百四圓（生地購入加工一千四百八十九万一千四十七圓を含む、以下各年の數字も生地購入を含む）で前年より三割八分强價額にして一千八百三十四万七千二百六十四圓の減少となり好景氣の頂上たりし大正八年の産額に較べると三分の一近くに激減し十五年前（大正五年）に逆戻りした不良の成績を表はすに至つた【挿畫は綿織物生産の状況】

累年比較

大正五年	二八、七九八、七四五円
仝 六年	四二、七〇三、七四〇
仝 七年	六六、七六四、〇八四
仝 八年	七六、九八五、八一九
仝 九年	四二、四五七、九〇九
大正十年	六五、三〇二、八五六円
仝十一年	四六、七〇三、二三六
仝十二年	四五、三五二、三〇七
仝十三年	五三、〇九七、三二四
仝十四年	六一、四九二、〇三九
昭和元年	四六、八七三、二一四円
仝 二年	四六、二〇〇、九四三
仝 三年	五五、七〇七、二六二
仝 四年	四七、四九八、八六八
仝 五年	二九、一五一、六〇四



絹織物と絹綿交織物
三割强の減少

昭和五年中の絹織物及絹綿交織物の生産總高は四十八万六千八百四十九圓で前年より二十一万九千三百五十一圓（三割一分）の減となつた 生産品の主なるものは伊都郡高野口町のシール生地で其の額は全体の七割一分に當る三十四万五千百七圓に上つて居る

毛織物

毛織物と毛交織物の生産高は四十八万四千九百十二圓（昭和五年）で前年より二十六万七百三十七圓の增加となつた 産地は和歌山市と伊都郡の高野口町である

ラシャ	二七九、二三二円
毛布（肩膝掛ヲ含ム）	一三三、〇三二
其他	七二、六四七
計	四八四、九一二

染物と晒 工賃一千萬圓
内捺染は九割

【昭和五年中】の染物と晒の工賃は一千四十二万三千四百九十圓で前年より百三十九万七千四百三十五圓（一割三分弱）の減少となつた内譯は左の通りで染物の中捺染物は九割五分を占めて居る

染物賃

捺染物	九、一七八、三六八円
無地物	四九三、八〇二
其他	七、六三〇
計	九、六七九、八〇〇

晒賃

白木綿	四二七、九五一円
綾木綿	一五七、三〇五
金巾	七九、五九八
其他	七八、八三六
計	七四三、六九〇

靴の製造
時代の推移を物語る！

靴といへば底に鳴皮を入れて歩く度にギュウーノヽと物凄い音をさせ之を履くものは口髭をはやしたお役人サンに限るもの、如く思はしめた時代は今ははや昔の夢と過ぎ去つて若い女も年老いた女もおめずおくせず毎日履く様に變つて來た此の靴も既製品やゴム靴の進出に押され氣味？但しは不景氣の打擊を被つて？縣下の昭和五年中の製造高は前年より四万三千四百七十圓も減少するに至つたが夫れでも十四万五百二十圓に達し一足七圓のものと假定して二万七十四足となり十餘年前の大正六年の製品高四万八千二百三十六圓に比べては實に三倍の額に上り時代の推移を如何にも面白く物語りつゝある様に思はれる

椿油

椿油といへば伊豆の大島のみに出來るが如く考へる人もあるが我が縣下に於ても有田、日高の両郡を初め縣下の各地で額は極めて僅少ではあるが毎年生産して居る昭和五年中の産額は四千二百二十圓で前年より五十圓の增となつて居る

昭和五年の生糸
三割七分減

本縣生産品中の大關格を占めて居る生糸（屑物包含）の昭和五年中の生産高は六百八十二萬六千五百四十三圓で前年より四百六萬四千五百三十六圓（三割七分）の甚だしき減少を示した

生糸	六、六二四、八三〇円
屑物	二〇一、七一三
計	六、八二六、五四三

累年比較

大正六年	三、一三三、一九〇円
仝七年	四、四三〇、四三五
仝八年	八、七四〇、四六一
仝九年	五、六二四、五八九
仝十年	七、四五六、四三五
仝十一年	八、六六六、七三三
仝十二年	九、五三八、四二九
仝十三年	九、六四一、四四四
仝十四年	一一、七七五、二九四
昭和元年	九、八一五、四二一
仝二年	九、三九二、〇三三
仝三年	九、六五四、四三一
仝四年	一〇、八九一、〇七九
仝五年	六、八二六、五四三

眞綿 の産額は一千二百四十圓（昭和五年）で前年より二千二百八十五圓を減少した

瓦と土管 四十萬圓

昭和五年中の生産高は三十八萬七千三百二十一圓で前年より十一萬三千四百九十二圓步合にして二割二分六厘の減少となつた

刷毛と刷子

昭和五年中の生産高は一万四千二百二十七圓で前年より四百七十四圓の減少を見た

籐製品

高は四千六百五十圓（昭和五年）で前年より四千六百十圓恰度半分に減少した

世界的の不景氣に祟られた？
海外渡航者の送金激減す
既往十ヶ年の中で最も少ない

昭和五年中に縣人の海外渡航者から送つて來た金高は三百万三千二百十七圓で昨年の通常縣會に附議せられた昭和六年度の縣歳入豫算中の一切の税收入高に匹敵して居るが

不況の風 は獨り我が國內に止まらず世界何處の國にも吹き荒むと見えて汗と血と涙の結晶として得る所の此の尊い送金高も既往十ヶ年の中では最も尠く前年の昭和四年に較べては百三十六万七千七百九十二圓步合にして三割一分三厘も減じ前々年の昭和三年と對比しては二百九十二万五千八十九圓步合にしてざつと半分を減じたことになつて居る昭和五年中の

送金者數 は四千八百四十三人で在留者總數の二割六分五厘となり殘る七割三分五厘に當る者が送金せざることになつて居るが此の未送金者に數へらる、中には夫婦共稼の結果得た所の金も主人一人の名義にて送金しつ、あることを認めなければならない尚昭和五年中の送金高を

一人當り 幾何の成績になるかと調べて見ると送金者一人當りとしては六百二十圓となり在留者全部の一人當りとしては百六十五圓となつて居る

最近十ヶ年間の送金高

大正十年	四、三六八、一〇五円
仝十一年	三、五三二、八六八
仝十二年	三、七三三、一八二
仝十三年	四、〇七九、五九四
仝十四年	四、六六六、九四九
昭和元年	三、九三三、八二三
仝 二年	三、七六八、五六一
仝 三年	五、九二八、三〇六
仝 四年	四、三七一、〇〇九
仝 五年	三、〇〇三、二一七

海外在留者 一万八千人（昭和五年末）

渡濤万里 の遠き彼方へ奮闘の志を懐いて昭和五年中に渡航した者は一千五百九十六人を數へ之と反對に同年中初志を貫き錦を故郷に飾るべく或は又止むなき事情の下に憾みの涙を呑んで故山の土を踏むに至りし者は一千百十人を算した而して同年末に於て海外に

在留せる 者は男一万二千二百八十九人女五千九百四十九人計一万八千二百三十八人例を以て示すと日高郡第一の都會御坊町と海草郡の加太町とを合した人口總數と相似る趨勢を示し

郡市別に 在留者の數を調べて見ると左の通りで東牟婁、日高、西牟婁の三郡が特に多く三郡の合した數は全數の七割一万二千八百二十七人を占めて居る

郡市別在留者（昭和五年末）

東牟婁	五、三〇八人
日高	四、一〇三
西牟婁	三、三一六
海草	二、五四三
那賀	一、七四七
有田	五九七

渡航先は動く 合衆國へ ブラ[illegible]に

縣人の渡航 先は左表に示すが如く北米合衆國に在留する者が最も多く全數の四割九分を占め之に次いでは加奈陀、ブラジル、濠洲、比律賓群島、メキシコ、新嘉坡、印度、秘露、其他といふ順となり世界中の國々に殆んど我が縣人の影を見ぬ所なき勢を示して居るが昭和五年末の現在と

十年前の 大正十年末の狀況とを對比して見ると北米合衆國及び濠洲、

渡航先異動の

國別	昭和五年末
北米合衆國	八、九二三人
加奈陀	二、七九九
ブラジル	一、七七〇
濠洲	一、三五二
中華民國	九二三
布哇	六八八
比律賓	四八五
メキシコ	四二五
其他	八七三
計	一八、二三八

今年は紙喰ふ 羊の年
我が縣下には極めて尠ない

今年は紙喰ふ動物、物柔さしい動物として幼少の子供にも特に親しみ深く記憶せられて居る羊の年である、此の懐かしみの深い羊は現在我が縣下に毛織物の材料となる緬羊と搾乳の用に供せらる、山羊と二種類が飼はれて居るが緬羊の方は左記三ヶ村に八十三頭山羊は日高郡の松原村外四ヶ所に四十頭を飼育せられて居るに過ぎない

緬羊（昭和五年末）

海草郡 椒村	四一頭
有田郡 南廣村	四一
仝 津木村	一
計	八三

羊毛類の輸入 一億四千萬圓

今や都會といはず農村といはず男子といはず女子といはず老人といはず幼兒といはず頭に被る帽子も毛、頸に卷つける頸卷も毛、肌に喰付けるシャツ、ズボン下、猿股、腰卷も毛、其の上を包む和服、洋服、外套も亦毛、手先足先を暖むる手袋靴下も毛といつた風に全く國民の生活は頭の先から足の先まで文字通り毛を材料としたものでなくてはならないもの、様になつて來た而かも其の原料の大部分は羊毛で其の羊毛は又殆ど全部といつてもよい程が濠洲（輸入の九割七分を占む）イギリス、チリ、アルゼンチン等より輸入して居るから羊毛は實に我國輸入品中の關脇格を占むる巨額に達して來た

輸入高（昭和四年）

羊毛	一〇一、八一五、八二六円
毛糸	一八、七三六、七〇四
毛織物	一九、九四一、三七八
計	一四〇、四九三、九〇八

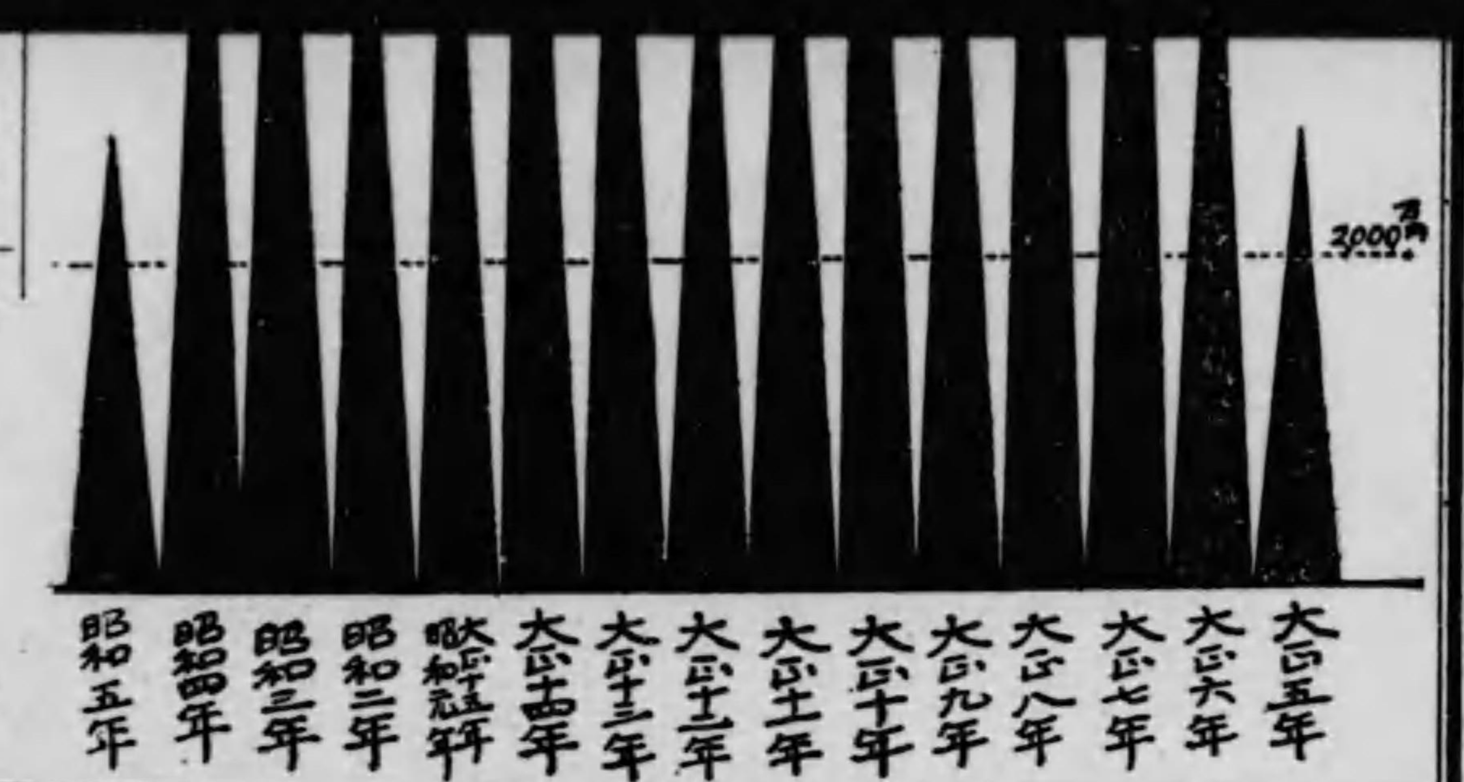
羊毛の消費量
明治十七年の二千四百倍
製品の輸入は減る

次に國民の羊毛消費量の趨勢に就て調べて見ると明治十七年に僅かに四萬圓程度の輸入に過ぎなかつたものが昭和四年中には驚く勿れ二千三百九十五倍の一億百八十一萬圓に餘る多額に上り數字を眺めた者をして只だ啞然たらしむる狀態となつて來た只だ一つ此の際に喜ぶべき現象は明治十七年頃には加工すべき法を知らなかつた爲に製品を主として輸入して居つたが今では加工の原料を主として求め國內で製品する様に全く一變して來たことで驚くべき數字を眺めつ、も幾分氣休めの傾向を表はして居ることである

羊毛類輸入の趨勢

明治十七年

羊毛	四二、五一九円
毛糸	二〇、四四六
毛織物	二、八六七、〇四一
計	二、九三〇、〇〇六



伊都	二,四五三	三八一
和歌山	一,七七七	一四三
計	五九七	一八,一二八

先は動く 米國へは遞減 ブラジルと加奈陀には發展する

は左表に示が如く北米者が最も多を占め之にブラジル、メキシコ秘露、其他界中の國々の影を見ぬ居るが昭和十年末の狀を對比して及び濠洲、布哇に在留する者は減少し中にも北米合衆國に在留する者は其の程度特に甚だしく步合にして一割二分數にして一千百九十七人に及んで居る之に反してブラジル在留者は十年前の三倍に餘る著しき發展振りを示し次で加奈陀、メキシコ、比律賓等にも漸次增加の趨勢を表はし渡航する方面こそは移動しては行くが我が縣人の海外に雄飛する志は常に燃えて居ることを如實に物語つて居る

先異動の趨勢（△印は減）

昭和五年末	大正十年末	十年間の增減
八,九〇三人	一〇,一〇〇人	△一,一九七人
二,七九九	一,七八〇	九九
一,七七〇	四〇三	一,三六七
一,三五二	一,四一一	△五九
九一三	七七八	一三五
六八八	七六四	△七六
四八五	二八六	一九九
四二五	一二六	二九九
八〇三	六九八	一〇五
一八,一二八	一六,四一六	一,八〇三

百倍 入は減る

貿量の趨勢と明治十七程度の輸入のが昭和四二千三百九十一萬圓に字を眺めたたらしむる只だ一つ此象は明治十べき法を知品を主としが今では加て求め國內く一變してき數字を眺めの傾向をである

趨勢

四二,五一九円
二〇,四〇六
八,六〇七,〇四一
九,三二〇,〇〇八

沿岸漁獲物 四百八十萬圓 前年より一割強の減

瀨戶內海の咽喉部に當る海草郡の加太町から初つて本洲島の最南角を東に廻り三重縣と境する東牟婁郡の新宮町に至る長汀曲浦百二十里に及ぶ沿岸に於て昭和五年中に漁獲した所の物は

魚類	四,〇四二,八一四円
藻類	一五四,二九四
貝類	三五,七八六
其他の水產動物	五四三,一九〇
計	四,七七六,〇八四

で數量に於ては前年と殆ど大差はなかつたが價額に於て二割二分弱百三十二万六千九百五十四圓の減少となり近年稀れに見る不良の成績を示した

五萬圓以上の漁獲物（昭和五年）

イワシ	六一〇,一〇三円
マグロ	五六一,〇一四
カツヲ	四三一,一一三
サバ	二九六,三一四
サンマ	二七一,〇一三
タヒ	二五三,九二九
エビ	二四五,八八八
サハラ	一八二,七二三
ブリ	一四一,七五三
イセエビ	一三六,五五九
アヂ	一三五,九五三
イカ	一二九,四〇八
フカ（サメ）	一一三,一六〇
テングサ	九九,九五七
カヂキ	八〇,七三〇
アユ	六四,〇五五

漁獲物累年比較

大正十年	四,二六四,八二七円
仝十一年	五,七〇四,七一九
仝十二年	六,二六五,九一五
仝十三年	七,二六九,六〇四
仝十四年	七,〇八〇,七六二
昭和元年	六,四〇四,八〇六
仝二年	六,三〇二,九一二
仝三年	六,四〇五,八九一
仝四年	六,一〇三,〇三八
仝五年	四,七七六,〇八四

水產製造物 二百六十萬圓 三十年前の十倍に達した

本縣の水產製造物は今から三十年前の明治三十三年には僅かに二十七万五千七百八十一圓を產するに過ぎなかつたが當業者を初め指導する人々の苦心と努力が漸次酬ひられ昭和五年の成績に於ては財界不況の餘波を蒙つて前年より一割三分五厘價額にして四十一万四千八百六十五圓の減少を見たが夫れでも二百六十五万七千七百二十圓に上り三十年前の九倍六分に當る長足の進展振りを示すに至つた

製造物（昭和五年）

食料	二,六〇八,四一三円
內 節類	一,〇八九,三九〇
煮乾	四九二,五〇三
塩乾	二六六,六一六
素乾	四〇,九七七
塩藏	一四,八六一
雜類	六八四,〇七五
肥料	二九,六一八
スキフノリ	八,〇四〇
魚油	一,六四〇
總計	二,六五七,七二〇
主なるもの カツヲ節	四九二,七六四円

我國の緬羊 列國の足下にも寄り付けない

昭和四年	
羊毛	一〇一,八二五,八二六円
毛織糸	一八,七三六,七〇四
毛織物	一九,六四一,三六八
計	一四〇,四九三,九〇八

列國の緬羊數は左の通りで露西亞が筆頭で濠洲之に續き北米合衆國が第三位を占め我が帝國は全く列國中何處の國の足下へも寄り付けない現狀にあるのは御同樣切齒せざるを得ないではないか

列國の緬羊數（千頭）

露西亞	一三三,八一〇
濠洲	一〇〇,六六四
北米合衆國	四七,一七一
南阿聯邦	四二,五〇〇
アルゼンチン	三六,二〇九
新西蘭	二七,一三四
英吉利	二四,五九二
印度	二三,三五〇
ウルグァイ	二三,五〇〇
西班牙	二〇,〇八七
ルーマニア	一三,八〇一
伊太利	一三,三五〇
ペルー	一一,三三四
佛蘭西	一〇,四二五
日本	二三

水產養殖 和歌海苔が特に減少

縣內の水產養殖（昭和五年）は十五万七千八百三十六圓で前年より四割一分弱價額にして十萬八千四百九十圓の激減となつた激減の主なる原因は和歌海苔の生產が六割五分に當る八万三千七百二十五圓といふ空前の減少を示した爲である

眞珠及介	八九,一二〇円
アマノリ	四五,六五五
ウナギ	九,六八六
コヒ	七,七七九
其他	五,四三六
計	一五七,八三六

仝二年	六,三〇二,九一二
仝三年	六,四〇五,八九一
仝四年	六,一〇三,〇三八
仝五年	四,七七六,〇八四

出稼漁業

昭和五年中の出稼漁業高は二十九万六千六十六圓で前年より十七万四千二百十九圓（三割七分）の減少を示した出稼先は朝鮮、八丈島、北海道で漁獲物はマグロ、カツヲ、サメ、イワシ等であつた

緬羊の飼育 政府に於て特に奬勵

政府は夙に緬羊飼育の奬勵規則を發布して飼育者に對して幾多の便宜を與へられることになつて居る外特に奬勵金を交付して我國より海外に輸出する程度にならない迄もせめて自給自足の出來る程度に早く發展せしめんものと不斷の努力を拂はれて居るが現在國內には僅かに二萬餘頭を數ふるに過ぎず其の飼育地も北海道福島、宮城、岩手の一道三縣が一千頭以上で以上の所で全數の六割四分の數を占めて居る現狀である

縣下の飼育狀況

成績未だ不良

縣內飼育の狀況は大正四年に有田郡內に一頭飼育し初めた者があつて以來縣の畜產組合聯合會其の他二三の方面で開始し專ら繁殖の途を講じて居るが如何なる關係かい'と懐かしい羊の年を迎へた今年迄には尙成功の曙光を認むる域に達しないのは殘念至極の感に堪へない

大正四年	一頭
仝五年	一
仝六年	五
仝七年	五
仝八年	五
仝九年	二一九
仝十年	二〇六
仝十一年	七四
仝十二年	八三
仝十三年	七八
仝十四年	一〇〇
昭和元年	一一五
仝二年	七六
仝三年	七七
仝四年	六六
仝五年	八三

カマボコチクワ	四八八,七二三
イワシ節	三九八,二三三
イワシ煮乾	二六六,一六八
ナマ節	一五五,八二〇
サバ節	一三五,三八五
イワシ塩乾	九四,六八三
ホシノリ	五八,四四三

製造物の趨勢

明治三十三年	二七五,七八一円
仝四十三年	三〇五,〇二六
大正九年	二,一二一,一八一
昭和五年	二,六五七,七二〇

罐詰

の生產は昭和五年には五万四千六百十六圓で其の他の內に含めて居る海草郡東山東村產の筍の製品は最も產額が大きい

サバ	五,七六五円
カツヲ	四,四〇九
イワシ	二,四三四
其他	四二,〇〇八
計	五四,六一六

漆器

本縣特產物の一つに指折り數へられて居る漆器の昭和五年中の生產高は二百四十七万三百十二圓で前年より製造塲數に於て百四十六戶價額に於て七十三万三千四百九十二圓步合にして二割三分弱の減少を示した

飲食用器物	一,八五三,七九九円
家具及裝飾品	四二三,七七八
其他	一九三,七五五
計	二,四七〇,三一二

製革 半減す

本縣主要物產の一つに數へらるゝ昭和五年中の製革は二百万九千七百四十四圓で前年に比し製造塲數で三十戶價額に於て百六十七万七千三百十八圓步合にして半減に近い四割五分強の減少となつた

藁製品

大正八年には四十三万一千五十一圓の產額に上つて居つたが其の後減少に減少を續けて昭和五年には十八万四千圓となつた昭和五年の產額は前年より八万八千百五十五圓（三割二分三厘）の減である

繩類	九一,四五一円
莚	四七,六三一
叺及俵	五,五八四
マブシ	四,四九九
其他	三四,八二四
計	一八四,〇〇〇

蜜蜂

の生產は二十年前の明治四十三年には一万七千百四十九圓十年前の大正九年には三万三千百七十九圓昭和四年には四万八千二百七圓と大した生產ではないが漸次增加の傾向に進んで來たが昭和五年には三万五千五百四圓となり二割八分の減となつた

縣下一年間の犯罪者は 中等學校の總生徒數に匹敵す

我が親愛なる八十萬縣民の中にも持つて生れたとでもいふのか全く手にお〜へぬ不貞漢もあれば不圖した出來心や不注意の爲に嚴めしい法の裁きに觸れる者が年々尠くない今昨昭和五年中の之等血腥さい殺伐行爲の大罪を犯かした者から初つて公衆の目に觸れる塲所で裸体となり或は又街路に小便を垂れ流して科料に問はれた小罪（說諭は含まず）のものまでを合計して見ると

驚く勿れ一萬四千七十三人の多きに上り例を以て示すと昭和五年三月一日現在の縣市町村立の師範學校、中學校、高等女學校及各種の實業學校（補習學校を除く）の生徒總數一萬四千六百十六人に匹敵し而かも犯罪者の數は年々歲々增加する一方にある許りではなく左表が物語る通り

刑法の罪を犯かす者の方が每年多數を占めて居るのは寔に嘆かはしき極みと言はなければならない次に昭和五年中の刑法の罪に觸れた者を罪名別に觀察して見ると窃盜が最も多く總數の四割一分を占め小說にあらはれて來る兇賊石川五右衞門が釜入りに當つて言ひ殘したといふ石川や濱の眞砂は盡くるとも世に盜人の種は盡きまじの句を思ひ出さずには居られなくなる窃盜に次ぐものは橫領で其の次は詐欺恐喝となり以上三つの犯罪は五千三百九十一件となり總數の七割五分を占めて居るのも再び驚かざるを得ない更らに一步進んで

地理的關係から眺めて見ると縣下第一の都會和歌山市の內に設けられた和歌山警察署管內は犯罪總數の三割六分に當る五千七十件の多きを占め生存競爭の劇甚なる所程犯罪は多きものよと物語りつゝあるが如く和歌山市に次ぐ都邑の所在地新宮警察署管內は一千三百九十五件で此の忌はしき犯罪迄も第二位となり以下田邊一千八十二件御坊一千十七件湯淺九百四件と順に續き山間に僻在する本宮警察署（東牟婁郡）管內は僅かに百二十七件で全く天下泰平といつた氣分を示して居る

刑法の罪（昭和五年中）

窃盜	二,九三一人
橫領	一,三〇〇
詐欺恐喝	一,一六〇
傷害	五一五
賭博	四四〇
失火	一四六
文書僞造	一四〇人
住居侵入	七〇
通貨印章證券僞造	五七
殺人	二四
脅迫	三〇
墮胎	二九
猥褻行爲	一二五人
強盜	一三
放火	一〇
殺人未遂	一七
其他	二二六
計	七,一八一

犯罪者累年比較

年次	刑法の罪	刑法以外の諸法令違反	計
昭和三年	五,八〇二人	五,六三〇人	一一,四三二人
仝四年	六,一〇〇	五,七三三	一一,八三三
仝五年	七,一八一	六,八九二	一四,〇七三

燒跡の「釘拾ひ」は 三日に一度の割【昭和五年中】

建物の火災に罹つて灰と化した損害高は昭和五年中に三十六萬九千五百七十二圓の巨額に上り其の度數は百二十三回に及んだから三日に一度の割で縣下の何處かで燒跡の釘拾ひをした人があつた勘定となつた同年中の火災の原因は八割迄は自己の不注意に基く失火で恐ろしい放火の禍ひは僅かに七件で十九件は原因不明となつて居る次に既往十年間の火災狀況を調べて見ると度數は一ヶ年に百四十四回損害見積高は九十二萬二千九百三十三圓といふ割合となつて居る表中損害高の特に目立つて居る昭和元年は天下の人々を驚かした高野山の金堂が燒失した爲である

累年比較

大正十年	六二三,七九一円
仝十一年	四四三,五四一
仝十二年	一,〇三三,二九一
仝十三年	二六一,三二五
仝十四年	四〇一,八九六
昭和元年	四,五三〇,〇〇九
仝二年	八三三,二五一
仝三年	二七五,一九二
仝四年	四七〇,六六〇
仝五年	三六九,五七二

昭和五年中の 落し物 拾ひ物

經濟的の打擊を蒙つて食ふに困る人さへあるといふ今日此頃大事なお金や大切な品物を道路や劇塲其の他人込みの中に落したり忘れたりする人が尠くない昭和五年中に警察署に屆出た落し物と拾ひ物は左の通りで其の內現金が五萬六千圓を超へて居る點と拾つた方の現金の高が落し高の半分となつて居るとの二つの點は時節柄特に注目に値ひする

落し物（昭和五年）

通貨	五六,一四一圓
物品	六,二三六点

拾ひ物（昭和五年）

通貨	二三,六七六圓
物品	七,九四四点

尙心の弛みから來る落し物や忘れ物は不景氣時代と好景氣時代とに依つて著しく數字が異なるものかと既往十ヶ年の狀況に就て調べて見ると一ヶ年平均現金は六萬二千八百六十四圓物品は六千五百二十点となり心の弛みは財界不況の時でも好景氣時代と大した差のないことを思はしめて居る

現金遺失累年比較

大正十年	六二,五〇四円
仝十一年	七七,一二九
仝十二年	七六,三七四
仝十三年	六二,八二五
仝十四年	六五,三七七
昭和元年	六〇,一四八
仝二年	五七,三六二
仝三年	四八,一六三
仝四年	六三,四二七
仝五年	五六,一四一
計	六二八,六四一

物品遺失累年比較

大正十年	五,二四一点
仝十一年	六,五二五
仝十二年	六,五九七
仝十三年	六,四四九
仝十四年	六,六四六
昭和元年	七,三九七
仝二年	七,〇六六
仝三年	六,四二八
仝四年	六,六〇〇
仝五年	六,二三六

昭和六年三月二十五日印刷　和歌山

和歌山縣勢

和歌山縣知事
編輯人　統計調
和歌山市本
印刷人
和歌山市本
印刷所　合名

統計の取扱者に望む

統計は一見した場合には極めて無趣味な數の集りとより見えぬものであるが心して見る時は無趣味と思はるゝ數の内部には統計の生命が宿つて居つて其の生命が刻々に進展し錯綜して行く國家社會の實狀を物語つて居る許りではなく既往の有樣も傳へ延いては今後に進むべき途をも敎へられて居ることを知ることが出來る

從つて統計の取扱者は常に調査の爲の調査たらしめず國民殊に爲政者をして一見無趣味とする數の内部に宿る所の統計の生命に

全く姿を失はんと

本縣の

最近一

古き昔から米に次ぐ大切な食料品として活程度が向上したといふのか但しは分不兎に角褌を緊めた樣な麥飯なんかは脚氣くなつた感じがする從つて我が縣下に於方で最近に至つて一層其の程度が甚だし

試みに　明治三十三年から昭和五年までの既往三十ケ年の作付狀況に就て觀察して見ると明治三十三年から大正四年までの十五ケ年間には二千九百七十三町六反歩の減少で一ケ年の割合は百九十八町二反歩であつたが大正四年から昭和五年迄の同じ十五年間には九千三百九十町二反歩といふ驚くべき減少で一ケ年平均六百二十六町歩といふ割

は全く麥の姿を失ふに至る寔に悲觀すべき趨勢を示して居る今や

人口は　加速度的勢を以て增加し食料品は自給自足を爲し難きを憂ふる狀態にある經濟的打擊は又津々浦々にまでも被つて擧國一致難局打開の途を講じつゝある秋麥作に心を注ぎ昔の如く褌を緊めた麥飯を三度の食膳に供し見る

昭和中でゴボキ目下績を計濟左のや數が慣

I+3X80